

地域の老人クラブの方たちとの世代間交流

『老人クラブの方たちとじゃがいも栽培』

1. 目的と経緯

- 地域の老人クラブの方々と種芋まきから収穫までの農園活動を通じて世代間交流を行う。
- 自分たちで種芋まきと収穫をした野菜を食べることで、食に関する意識を高める。
- 毎年恒例の行事であり、地域の老人クラブの方々と子どもたちが一緒に農園活動を行う中でお年寄りの方を身近に感じ、農作物について学べる場となっている。

2. 内容

【春】・老人クラブの方々に畑の耕作をしていただく。

- 園児が畑に間隔をあげながら、種芋を置いていく。

その際、老人クラブの方に置く間隔や種芋の切り口を下にして置くことを教えてもらう。

- 老人クラブの方に種芋と種芋の間に肥料をまいてもらい、その上に土を被せた。

- 1つの種芋からたくさんのじゃがいもが出来ることを教えていただき、収穫が楽しみになるような話をしていただいた。

【夏】・できるだけ日差しが暑くならないうちに畑へ行き、老人クラブの方々と一緒に芋ほりをする。

- 一人ずつ小さいバケツを持ってじゃがいもを拾い集め、バケツいっぱいになったら袋に入れる作業を繰り返す。今年は豊作であり、拾い終えるのも大変だった。



3. 成果と課題

- 栽培・収穫の喜びを味わい、食への興味・関心を持つことができた。給食の材料となり、自宅に持ち帰ったりしたことで家庭での話題にもなった。
- お年寄りとの関わりの中で声をかけられ、褒めてもらえたことで自信につながり、喜びや親しみを持てる良い機会となった。
- 掘ったり、拾ったりの作業に夢中になり、会話の時間が少なかったので一緒に休憩したり、質問する時間をもう少し持てると良かった。